

課題意識:

当初5か年の終盤を迎え、これまでの**活動の総括の時期**

「サロン」にとどまることなく、**課題に向けて協働する組織**となれば!

関係するWGとも連携しながら、**今後何を目的としていくのか検討が必要**

これまでの活動(WG活動+大学インタビュー30件)から見た、  
大学と地域との連携における大学の役割と、その方向性(コメント歓迎!)

## 人材の育成:

- グリーン人材の受け皿作り(=就職先の確保とその後のキャリア形成)
- 脱炭素だけでなく、資源循環や Nature positive も!
- 意識の高い学生の底上げと、それ以外の層のボトムアップ

**脱炭素 x ○○**: 交通、福祉、教育、まちづくりなど、**社会課題の同時解決**につなげる  
例:

- 地域新電力などの新たな地域産業を地域で担える人材の育成
- ソーラーシェアリングの研修プログラムへのインプット
- 大学キャンパスのゼロカーボン化の取組の周辺地域への展開:行政と連携し、それを促進する政策的支援へとつなげる
- 大学と連携した脱炭素先行地域事業などの取組の、大学等コアリションを通じた他大学への伝播
- 大学の学術研究と社会課題のマッチング:社会課題の解決へのダイレクトな貢献のみならず、社会課題解決をテーマとしたリカレント教育の機会の提供も含む
- 大学と行政の新入職員の合同研修による地域脱炭素化の意識・理解の共有
- 地域脱炭素化及び社会課題への対策等についての行政と市民の垣根を超えた対話の場の創出
- 大学教員としての地域との関わり:それを大学の地域貢献として位置付け、評価すること、など



大学から周辺地域へ、さらにほかのまちへ、  
関係者に開きながら**取組の横展開**をすすめていく

## 来年度（会計年度2025年）実施予定の業務の紹介

- 地域で活躍できる環境人材の育成検討会の実施（検討会5回程度→提言とりまとめ）
- 現地視察（継続）
- 大学インタビュー（継続）
- COP30での発信（大学を核とした日本の地域脱炭素の取組の世界への発信）

Nature  
positive  
university  
のご紹介



**NATURE POSITIVE**  
—UNIVERSITIES—

- [\(Website\) Nature Positive Universities](#) **Nature positive universityと検索**
- (Host) 英国オックスフォード大学、UNEP Youth & Education

世界中の大学のNature Positive Pledge(生物多様性を推進することへの宣誓)への署名と目標達成を促進  
Nature Positive Journey(生物多様性を推進するための思考のフレームワーク)を活用し行動することを推進

日本 千葉商科大学、筑波大学、東京大学  
大学の総意としてではなく研究室や学生のサークル単位でも参加できる

1. 731大学、1900名以上の参加
2. 106カ国の大学から参加
3. **Nature Positive Pledge** (生物多様性を推進することへの宣誓) は45カ国154大学
4. 40カ国より482名のstudent ambassadorsが各大学で活動

